

日本共産党区議会議員
Japanese Communist Party

安藤たい作

ニュース 第15号

政治動かすのは、区民の皆さんの良識ある声

その声届く、 より開かれた区議会目指します！



品川区主催の新春名刺交換会に参加。知り合いの方がほとんどいない私は、会場を4～5周してつつがなく帰ってきました(泣)



漫画：安藤たい作

昨年6年は区民の皆さんの声と、それを誠実に議会に届ける政党・日本共産党の議席の力が合わさって、政治を動かす一年となりました。ここでは品川区の区政参加における今後の課題を考えてみたいと思います。

「税金飲み食い勢力」追い詰めた世論の力

昨年末の政務調査費を飲食費に充てることを禁止するルールはどうやってつくられることになったのでしょうか。私は補選でこのルール作りを公約の一つとして掲げましたが、これまでいわゆる「税金飲み食い勢力」(税金で飲食いしても痛みを感じない方々)は、共産党区議団のこのルール作りのための話し合いを持つという提案に長らく応じないできました。しかし選挙中に日本共産党がこの問題を選挙の争点に掲げ、全戸ビラを配ったり宣伝するなどし、広くこの問題が区民に明らかになるにつれ「このままでは選挙がたたかえない」と「税金飲み食い勢力」を追い詰めたのでした。区民の怒りをのせた私の二位当選が決定打ともなり、選挙後すぐ、あれだけ応じようとしなかった「政務調査費あり方検討会」の提案がなされたのです。このように、区民の皆さんが区政に直接触れ、声をあげることが政治をまっとうなものにする上で不可欠な要素です。ところが品川では、

- ①そもそも議会が平日の日中という傍聴しやすいとは言いがたい時間帯にしか開かれていない
 - ②本会議での「再(々)質問」、予算・決算委員会での「態度表明」がケーブルTV放映からカットされている
 - ③請願・陳情者の趣旨説明(陳述)の機会が尊重されていない
 - ④情報公開制度で一件につき三百円の「手数料」がかかる(1区で無料)などの問題点が残されています。
- 議会と区政の透明性向上のため、今後も力を尽くしたいと思います。

安藤たい作プロフィール '74年 宮城県仙台市生まれ32歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

安藤たい作ニュース は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。